

令和8年度 学校推薦型選抜

小論文

試験問題

美術領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて5ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は3ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

美術領域専攻

(5枚の1)

下の文章を読んで、以下の設問に答えてください。

設問1. この文章の要旨を100～150字でまとめてください。

設問2. これまでにあなたが見に行った展覧会で、最も印象に残った作品と出会った時の場面と心情を具体的に述べ、それを踏まえて、教師の立場からどのように子ども達と美術作品の出会いの場をつくり、鑑賞活動の工夫をしていきたいかを考え、述べてください。(600字～800字)

あなたはいま、芸術作品の前にいる。その場所は、たとえば和辻哲郎や亀井勝一郎が訪れたような厳粛な古刹でもよいし、あるいは岡倉天心がその美点を謳っていた、閑寂たる茶室でもよい。岸田劉生が愛したような古美術溢れる自室や、はたまた武者小路実篤が圧倒された美術館の一室ということもありえるだろう。いずれにせよこの場には静けさが行き渡っていて、あなたは、その張り詰めた空気を妨げぬよう、じっと息を殺しながら作品と向き合っている。場の雰囲気は重苦しいかもしれない。しかし、その重苦しさにすら気づかないほどの深度で、あなたは作品にのめり込んでいる。もしくは、作品があなたにのめり込んでいる。フェノロサが憧れていた忘我の境地のような、法隆寺で木村荘八に訪れた法悦の境地のような、そのような豊潤な時間である。

こうした鑑賞が、かけがえのない経験であることは疑いえない。もとより、稀有な経験ではある。いつでも、誰にでも、訪れうるものではないだろう。ただ、少なくとも、こうした鑑賞の境地への憧れそのものが、古来、一方で芸術を創る人たちを駆り立て、他方で芸術を愛する人たちを焚き付けてきたことは間違いない。何であるかはわからない。しかし、そこには何かただならぬものが、確かにある。その何かを求めて、一対一で、作品と対面する。わたしたちは、そのような孤独な鑑賞経験がもたらす価値を確かに求めてきた。

と、そこに、作品をみているあなたのとなりに、もう一人の人物がやって来る。その人は(知人・友人かもしれないし、家族や恋人かもしれない)、同じ作品をみている感動を分かち合おうとして、あなたに話しかける。彼／彼女は、たとえば、作品についての自らの感想を告げるかもしれない。作品内の興味深いポイントを指摘しながら、こちらの見方を是正し、鑑賞経験の幅をひろげてくれるかもしれない。あるいは、あなたからの共感を期待して、あなたに意見を求め、ともに話し合うといったこともあるだろうか。会話が弾むと、作品の別の顔がみえてくる。話し相手であるその人物のことも、より深く、わかってくる。のみならず、自分でも気がついていなかった自分自身の見方が言語化され、鑑賞の偏りや思考の癖が見つかる。相手に適切に伝えようと努力する過程で、自分の内側から、新しい言葉が湧き出てくる。要するに、他者の感性、知見、経験、そしてことばを介在さ

美術領域専攻

(5枚の2)

せることで、あなたは、みていたはずの作品と新たに出会い直す。

このとき、先ほどまで同じ空間を支配していた、息をひそめて作品と対峙する緊迫感は消えてしまうだろう。しかしそれは、鑑賞の時間が台無しになったということだけをただちに意味するのではない。一人で作品と向き合う時間がかけがえのない価値を宿していたように、誰かと作品をみる時間もまた、別の価値を確かにもっている。美術館で行われる対話型鑑賞の場で、友人と訪れたギャラリーで、誰かの書斎で、煎茶の席で、芸術に関する授業が行われている教室で、わたしたちは会話を伴いながら作品を楽しむことができる。作品を味わっていたあなたのとなりに誰かが立つことで、鑑賞の価値が損なわれるのではない。価値の重心が移動するのである。

今村信隆『「お静かに！」の文化史—ミュージアムの声と沈黙をめぐって』, 文学通信, 2024, pp. 234-236 (一部改変)

3～5枚目は下書き用紙のため省略します。

令和8年度 学校推薦型選抜

小論文

試験問題

体育領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて6ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は3ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

体育領域専攻

(6枚の1)

以下の文章を読み、問いに答えて下さい。

「運動しない人が多くなるのは当たり前。子供がボールを使って遊べる場所なんて、どこにもない。子供の頃に体を動かさなければ、大人になってスポーツをしようとは思わない」

年1回以上の運動実施率が下がり、2006年以来の6割台になったという笹川スポーツ財団の調査結果が出た。その数字について、子育て中の知人と雑談していると率直な意見が返ってきた。

記者の暮らす地域でも、公園はボール遊び禁止だ。小学校の校庭はボールが使えるが、開放は月1回だけ。公園で子供たちが声を出して走り回っていると、近所の人に注意されたこともある。

最近の子供は、塾などの習い事を多くこなしている。友達と時間を合わせて集まることすら難しいという現状もある。

では、どうすべきか。ある取材で会った東京ヴェルディeスポーツGM¹の片桐正大さんから興味深い指摘を聞いた。片桐さんも都内で6歳の子育て中という。

「私もスポーツで人生が豊かになった経験があるので、子供にスポーツをやってほしい。しかし、都心では非常に難易度が高く、スポーツが昔のような存在感を失っている。かつてのスポーツの教育的効果を今、一番持っているのがゲーム。だから、ヴェルディもeスポーツのチームを立ち上げた」

ゲームの中は場所の制約がない。オンラインを通じ、距離の離れた仲間とつながることもできる。

改正の検討が進むスポーツ基本法でも、eスポーツの推進は一つのテーマとなっている。日本スポーツ政策推進機構は提言の中で「国内外の世代を超えたコミュニケーション、コミュニティ、友人関係の拡大が期待できる」と効果を説明する。高齢者や障害者もゲームでは自由に動き回れる。脳などに及ぼす好影響についてのエビデンス研究も進んでいる。

これからの時代、ゲーム（eスポーツ）は、スポーツの一部に置き換わるものになるのか。

記者も小学生2人を子育て中だ。一緒にゲームする中で、コミュニケーションを取れたり、クリアのために創意工夫をしたり、プラスを感じる。しかし、もし、一日中ゲームをしていた子供に「スポーツもしろう」と伝えた時、「eスポーツをしているよ」と返されたら……答えに窮してしまう。

ゲームの効果を否定するわけではないが、「スポーツ」と呼んでいいのか、モヤモヤが残る。その中で、あるスポーツ団体の幹部の話は胸にストンと落ちた。

¹ GM：ゼネラルマネージャー

体育領域専攻

(6枚の2)

「時代の流れがあり、ゲームを『非』とは言えないが、ゲームだけしていれば『是』でもない。良いバランスでの融合が必要。あとは、社会全体でどのように受け入れられ、認知されていくか」

日本eスポーツ連合の調査によると「eスポーツ」への認知は8割ほどに広がったが、約半数は実態をよく知らないという。

言葉の定義は時代で変わる。もし、国民の多くが「ゲームもスポーツの一つ」と考えれば自然と理解は広がる。

特に親の理解は不可欠だ。「eスポーツ」という言葉を聞いて育った今の若者の世代が親になった時、子供に対して「ゲームばかりやって」と言わず、「算数の宿題の後はeスポーツの練習ね」と推奨する未来がくるかもしれない。

議論は続く。大切なのは、未来の子供たちにとって、より良い「スポーツ」の環境が整うことだ。

(出典) 小林悠太：スポーツ記者の目(子供が「スポーツできない」世の中で…)
体育科教育 2025年7月号 p33 (一部改変)

体育領域専攻

(6枚の3)

【問い】

あなたは、eスポーツを「スポーツ」として認めるべきだと思いますか。それとも、身体的運動をともなう伝統的なスポーツとは区別すべきだと思いますか。

その理由を述べた上で、今後の子どもたちにとって望ましい「スポーツ」とはどのようなものか、あなたの意見を900字以上1200字以内で具体的に述べなさい。

4～6枚目は下書き用紙のため省略します。

体育領域専攻

(1 枚の 1)

第2次試験

第1次試験合格者に対する面接でのプレゼンテーション課題

「インクルーシブの視点を持った体育授業の工夫について自分の考えを述べよ」